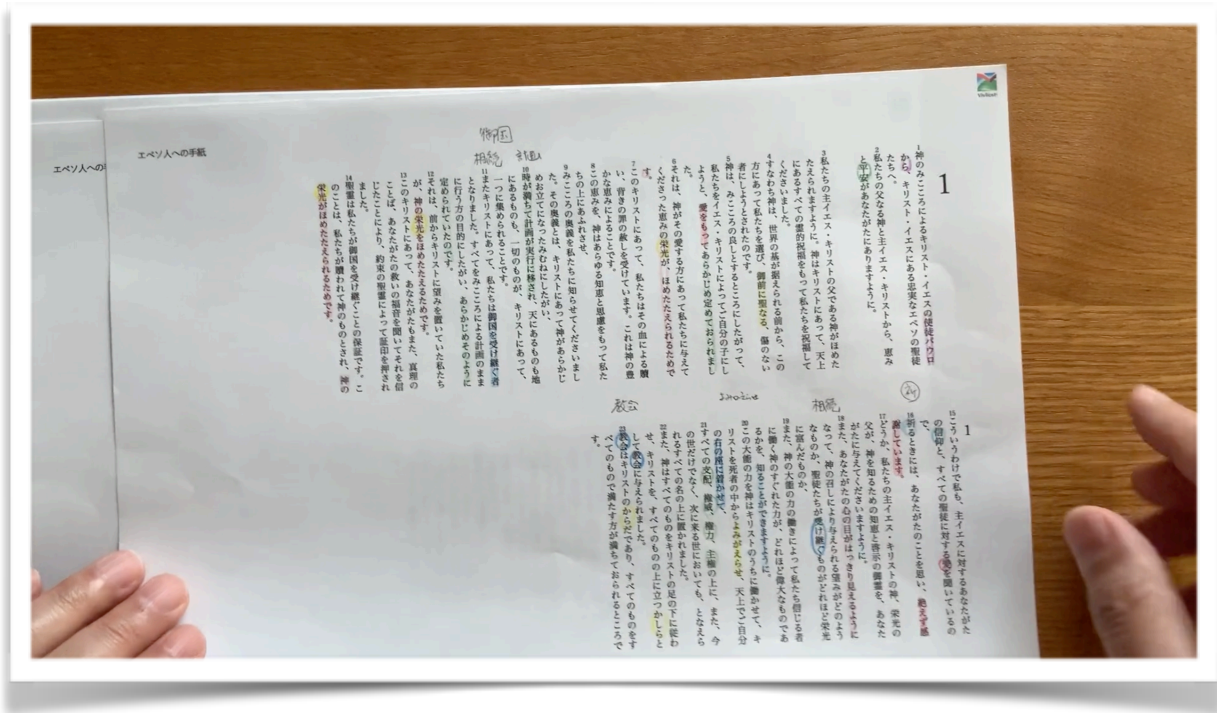




### まるごと読む・エペソ人への手紙 #3 段落分けした紙をつくる



まるごと読む聖書、エペソ人への手紙をチャレンジしていただいている方、途中経過がこうやって「格闘してます」と送られてきたりしていますけども、同じ言葉を探して、少し長いですが、だんだん目が慣れてくると同時に、目が回ってきますが、こうやって段落を区切って見ていただいているところだと思います。

段落を区切っても、この紙がずっとくっついていきますので、そこを分けた紙をお渡ししますと言っていました。昔はこれを手で切って貼り直したりもしました。

この何章何章というものとか、これは新しい協会共同訳です。間に「題」がついていて便利な感じはしますが、実はもともと聖書に章が入っているわけじゃないのです。この1章2章という段落に章をつけたのは、13世紀にカンタベリー大司教のラントン教授？神父が、学生に教えるために章をつけないと話ができないと言うので付けたのが、どうも今までずっと使われていると。いい具合なんですね。各章に全部つけているのですが、それぞれの長さがちょうどいい感じで、みんな便利に使って、文章もできていますので、今更変えられないということなのですが、でも、これは聖書にもともと入っていたものではないので、間違っているとか適切じゃないというところはよくあります。まあまあ上手くいってますけれど。

例えば、創世記の1章は、(2章)3節までだというのは、「これは天と地が創造された時の歴史である」という言い方、これは後で「ノアの歴史である」とか「アダム史の歴史である」と言い方と一緒にするので、2章3節までを一緒にしなくてはいけないのに、そこから崩れてしまっていますから、役には立ちますが、それを大切にすぎないで段落分けをしてください。他の聖書を見ると、こういう題がついてて、これは便利なのですが、この題をつけているのも、完全に、この編集者の意図、解釈が入っている題です

から、役には立ちますけど、こういうものに惑わされて全体の概略が見えないようにならないように気をつけてください。

エペソ人への手紙は6章ありますけれど、それを段落に分けてある紙をお渡しします。これは、私たちの「私たち」というのは、私のと、私と一緒にやって研究してる人たち、うちの家族の分析の結果なので、これは正解だというわけではないですね。ですから、これを確かめられると思います。自分たちでやっていますから。すると、これはこっちじゃないのかな、あっちじゃないのかなと是非苦労してください。そうすると、もっと自分のものになると思います。

「同じ言い方が出てくるんだね。」とか、「この段落の出だしが一緒だ。」とか、「話が最初に祈りがあったけど、少し飛んでからまた祈りがあるんだね。」ということのを並べて見れますよね。「この祈りと、この祈り。あれ、どういう祈りの違いなんだろう。」と言って、今度、この中だけを細かく見てみる。こっちの中を細かく分析してみると、「この祈りとこの祈りは、この中で似てるけど違うね。」ということが、見えてくるかなと思います。

4章の最初に「ひとり」の話があって、6章のところも「妻と夫は一体です」みたいな話があって、飛んでるところに、似ているところがあるぞって思うと、こうやって切れていますから、二つ並べて比べることができますこの紙をお渡ししますので、自分が分析したものと比べて、そのまとまりを把握して見ていただきたいと思います。